

1 超音波検査室の作業環境を改善する取り
2 組み

3
4 ○布施義也 関根智紀 崎山恵理子 木内清恵
5 菅澤千賀子 伊東功江 朝田寛 佐瀬正次郎
6 (総合病院国保旭中央病院、中央検査科)

7
8 【目的】近年、超音波検査者の筋骨格筋障害や眼の
9 疲労が叫ばれるなか、(社)日本超音波医学会から「超
10 音波検査者が安全・快適で健康的に働くための提言」
11 が発表された。今回、我々は検査者の疲労を抑える
12 ため、提言に基づいて業務調査を行い、作業環境改
13 善への取り組みについて検討をしたので報告する。

14 【対象および方法】対象：当院超音波検査室13室と
15 超音波検査者15人(男性5人、女性10人)。
16 項目：①疲労調査、②ベッドの高さ、③検査者の姿
17 勢、④装置モニタと検査者との角度関係、⑤検査室
18 の照度、とした。方法：疲労調査は自覚症、疲労部
19 位調べ(日本産業衛生学会)を使用、他項目について
20 は超音波医学会からの提言に基づき、現状分析と環
21 境改善可能な取り組み、その具体的な展開とした。

22 【結果】①疲労の自覚症状は業務前後で15例/15例
23 (100%)にみられ、疲労部位が首8例/15例(53%)、
24 腰9例/15例(60%)に認められた。②ベッドの高
25 さの適合は10例/13例(77%)、③検査者の姿勢(前
26 後傾)の適合は12例/15例(80%)、④装置モニタと
27 検査者との下方視適合は0例/13例(0%)、⑤検査室
28 の照度の適合は0例/13例(0%)であった。

29 【考察】検査者の疲労は予想より高く、提言をもと
30 に調査をしてみると多くの項目で不適合がみられた。
31 改善には、装置モニタとの角度や検査椅子は物理的
32 な部分もあり即改善が困難なもの、照度は明るくす
33 ることが求められるが長年の慣れ環境も加わり改善
34 が容易ではないものがみられた。ただ検査環境は改
35 善しないと検査者に疲労が生じるので今回の検討を
36 もとに検査室の組織問題として取り組んでいきたい。

37 【まとめ】(社)超音波医学会の提言をもとに検査室
38 環境を調査した。今後、問題あるべき項目は改善へ
39 取り組みを進めるべきと考える。 0479-63-8111